

7/1 (火) 司会: 瀬尾

矢野 『幼児の歌唱表現の実態 ～3人の幼児の言葉とリズムの分析から～』

・幼児の歌唱指導 → 幼児の歌唱における一般的な発達と共に個人間の差異をとらえておくことが重要。

(方法) 福岡市内にある保育園の3人の幼児を対象

・1989年3月、1990年6月、1991年3月計3回を約3年にわたって調査

・幼児が日頃うたう歌を自由に選択。

I. 言葉 II. リズム

(発音)
(言葉の再生率)

(拍とテンポ)
(リズムの再生率)
(リズムフレーズ)
(拍子)

のカテゴリーに分けて検証

↓ これらの検証をもとに...

<結論>

★ 幼児の歌の発達において、言葉がリズムの発達に重要な役割を果たしている。

★ 歌の発達においてまず言葉が明瞭に発音されていることが必要となる。

歌の発達における言葉の重要性を認識し、経過の発達を見守っていくことが重要である。

★ 歌の指導において言葉の発音や発声に留意していくことが幼児の歌の発達を助けるひとつの要因となる。

質疑

Q. リズムフレーズとは?

A. リズムの再生率? 2つのリズムが組み合わさったもの?

Q. リズムの再生率の評価の方法は?

A. 1音節単位で? 保田さんからリズムがずれたらまちがいの。

Q. 2つの音しか歌えていないとはどういうこと?

A. 曲の中で2つの音しか合っていないか。た。(確率で4%)

Q. 言葉の再生率の幅は?

A. 曲ごとによる率のちがいの。(ある曲では43.5%である曲では80.0%ということ)

Q. 言葉がリズムの発達に重要な役割を果たしている。なぜ?

A. こぼの再生率が先に上がって、リズムの再生率が上がっているからではないか。

Q. 個々のリズムの再現については特に大きな変化がみられないとは?

A. - コーゴの4カ音符などのリズムがうたえているかどうかということ。

田中『音楽科における自ら学び、自ら考える力を育てる学習指導に
関する実態調査』(いづみ県)

(Q1. 音楽の授業でどんなときに楽しいと感じるか?)

A. 楽器を演奏しているとき ^(1位) 30.9% (小5年生) *これらの数字は統計的にみると
2位以下。曲をきいているとき... 28.5%
うたをうたっているとき... 27.7%

(Q2. 授業でどのようなことが"できるよりに"なりたいか)

A. じょうずに楽器を演奏したい. 32.4% (中学生)



以上より... ☆ 児童生徒は、リコーダーや鍵盤楽器、打楽器に
強い興味・関心をもっているのではないだろうか?

☆ "じょうずに楽器を吹きたい"という表現に関する
も 能習得を児童生徒に望んでいるのではないか?

『一人一人の個性をまかす器楽指導』

「自分のやりたいうつさな楽器を何で授業でできないのか?」
との生徒の発言。



自由なカリキュラムで自由な器楽活動力

『クラス全員で吹奏楽を体験する』

見たい! 触れたい! 吹いてみたい!



いろんな個性をもつ楽器が集まり、
音をブレンドしてひとつの音楽をつくる作業



学級生活そのもの

☆ 目的を分類してみよう?

林 野

養護施設での音楽療法を健常児に応用して…。

実践

- 「名前の歌で身振りをつけて自己紹介。
- 「ロックンロール」のりた
- 曲に合った表現を自由に描く
- 曲に合わせて体全体を使って思いきりおどる。
- 一定のリズムに乗って楽器を順番にならしていく。
- 楽器で自分なりの表現をする。

<課題>

◦ 研究方法

- ・ 場所
- ・ だれを?
- ・ どのよりの観点で? ... etc.

※ 「話すようになる」とかは対象児の実験前の様子も知っとかな..といけなのでは?